

# shindaiwa


## 取扱説明書

### 携帯用発電機

# EG900

空冷4サイクル・OHVガソリンエンジン



目次	頁
1.安全上の注意	2
2.仕様	4
3.用途	5
4.各部の名称	6
5.装備	7
6.運転方法	9
6-1.始業前点検	9
6-2.始動	11
6-3.停止	12
7.発電機の操作	13
7-1.操作	13
7-2.使用できる機器の容量	15
8.点検・整備	16
9.長期保管	19
10.故障時の対応	20


 **注意：**安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

## はじめに






このたびは、新ダイワの携帯用発電機をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

- この取扱説明書は、本機を安全に正しく使用していただくために作成しています。  
本機の取り扱いを誤りますと事故や故障の原因となりますので、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みください。
- 本機の取扱いは、この取扱説明書の内容を理解し、安全な取り扱いができる人が行ってください。
- 本機を貸し出す時は、必ず取扱説明書を添付してください。
- 取扱説明書はいつでもご覧いただけるように大切に保管してください。
- この取扱説明書では、注意事項のランクを下記のように区分しています。

- |  |
|--|
|  <b>危険</b> ：取り扱いを誤ると、死亡または重傷を負う可能性がある場合。                        |
|  <b>注意</b> ：取り扱いを誤ると、中程度の傷害や軽傷を負う可能性がある場合、および物的損害が発生する可能性がある場合。 |
| <b>&lt;注意&gt;</b> ：本機の保護と、本機の性能を十分に発揮させるための注意事項。   |

- 『 注意』に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

## 1. 安全上の注意

-  **危険：排気ガス中毒**
  - エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。
  
-  **危険：感電**
  - 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
  - 出力コンセントや発電機の開口部に、ピンや、針金などの金属物を入れないでください。
  - 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
  
-  **注意：排気ガス中毒**
  - 排気を通行人や民家などに向けしないでください。
  
-  **注意：感電**
  - 本機に水をかけたり、雨中での使用はしないでください。
  - 運転中はスパークプラグ・プラグキャップ・高圧線には触れないでください。
  
-  **注意：火災**
  - 本機は、燃料としてガソリンを使用しています。燃料の点検や給油・抜き取り、燃料コシ網の清掃など、燃料を扱うときは必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。
  - 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。また、燃料漏れがある場合は、絶対に使用せず、必ず修理してください。
  - マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。
  - 本機は壁などの障害物から1 m以上離し、水平な場所で運転してください。
  - 保管用カバーなどをかけるときは、本機が冷えてから行ってください。
  - 屋内配線に接続しないでください。

## ⚠ 注意：やけど

- 運転中や停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、触れないでください。
- エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。

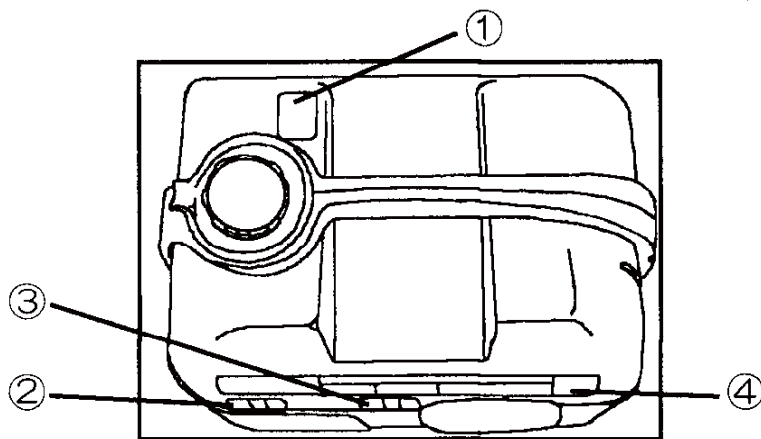
## ⚠ 注意：けが

- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置してください。
- エンジンを始動するときは、必ず使用機器のスイッチを切ってください。
- 回転部に棒・針金・ひもなどを入れないでください。
- 回転部に巻き込まれる恐れがありますので、長い髪は束ね、スカーフやアクセサリ類のぶらつく物は身につけないでください。
- 運転中に移動しないでください。
- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
- 改造したり、部品をはずしたままで運転しないでください。

## ■ 警告ラベル貼付位置

警告ラベルが見えにくくなったり破損したときは、新しいラベルを指定場所に貼り替えてください。ラベルの注文は（ ）内の番号で注文してください。

- |         |  |
|---------|--|
| ① 火災    | (品番 15450495000)                               |
| ② やけど   | (品番 15450498000)                               |
| ③ 高電圧注意 | (品番 15450499000)                               |
| ④ 注意・警告 | (品番 EG900-A:15450513000 , EG900-B:15450512000) |



## 2. 仕様

モデル		EG900-A	EG900-B
発電機	発電方式	回転界磁型同期発電方式	
	励磁方式	自己励磁	
	電圧調整方式	コンデンサ方式	
	周波数 (Hz)	50	60
	相	単相	
	定格出力 (kVA)	0.75	0.90
	定格電圧 (V)	100	
	定格電流 (A)	7.5	9.0
	定格回転数 (min <sup>-1</sup> )	3000	3600
	力率	1.0	
	定格	連続	
	過電流保護	ノーヒューズブレーカー	
	直流出力 (V-A)	12-8.3	
エンジン	名称	三菱GM82	
	型式	空冷4サイクルOHV式ガソリンエンジン	
	連続定格出力 (kW/min <sup>-1</sup> )	1.1/3000	1.3/3600
	排気量 (ml)	80	
	燃料の種類	無鉛ガソリン	
	潤滑油容量 (L)	0.4	
	始動方式	リコイルスターター式	
装備	オイルセンサー	有	
	スローダウン	無	
燃料タンク規定容量 (L)		4.0	
連続定格運転時間 (h)		6.5	4.8
外形寸法L×W×K(mm)		465X343X371	
乾燥質量 (kg)		25	
電気用品取締法認可番号		▽96-567	▽96-568

### 3. 用途

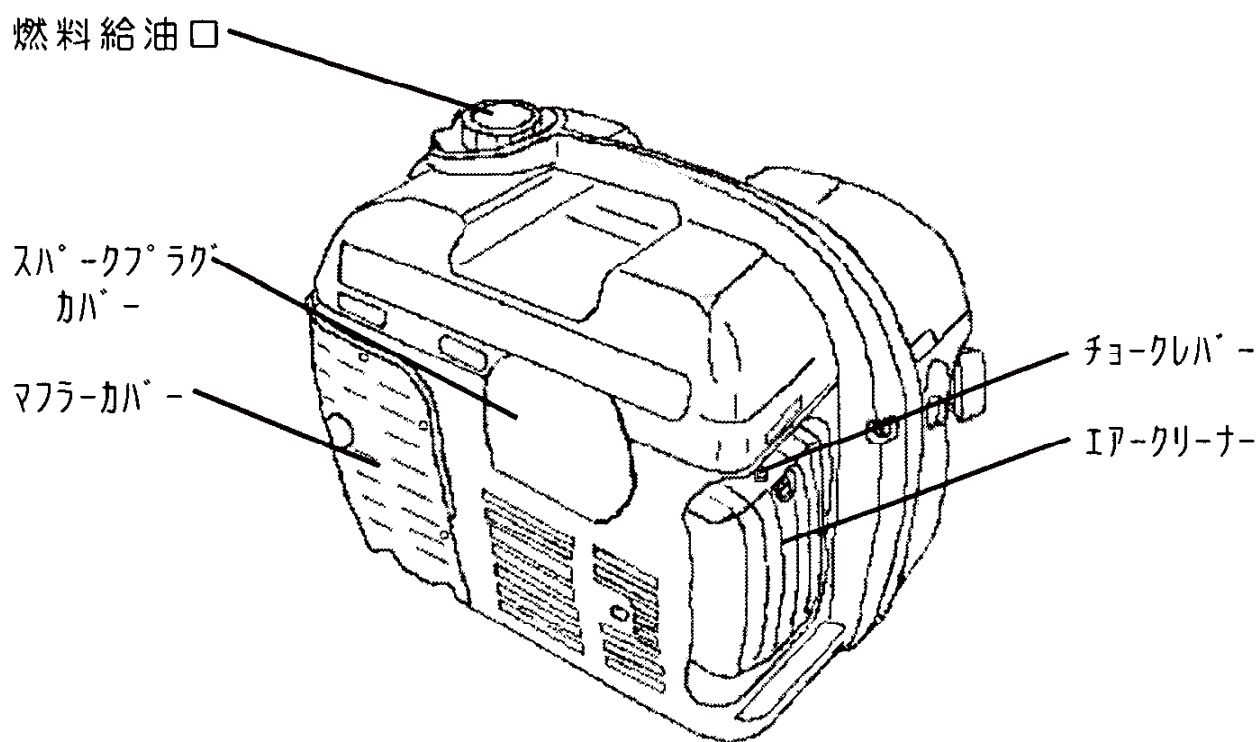
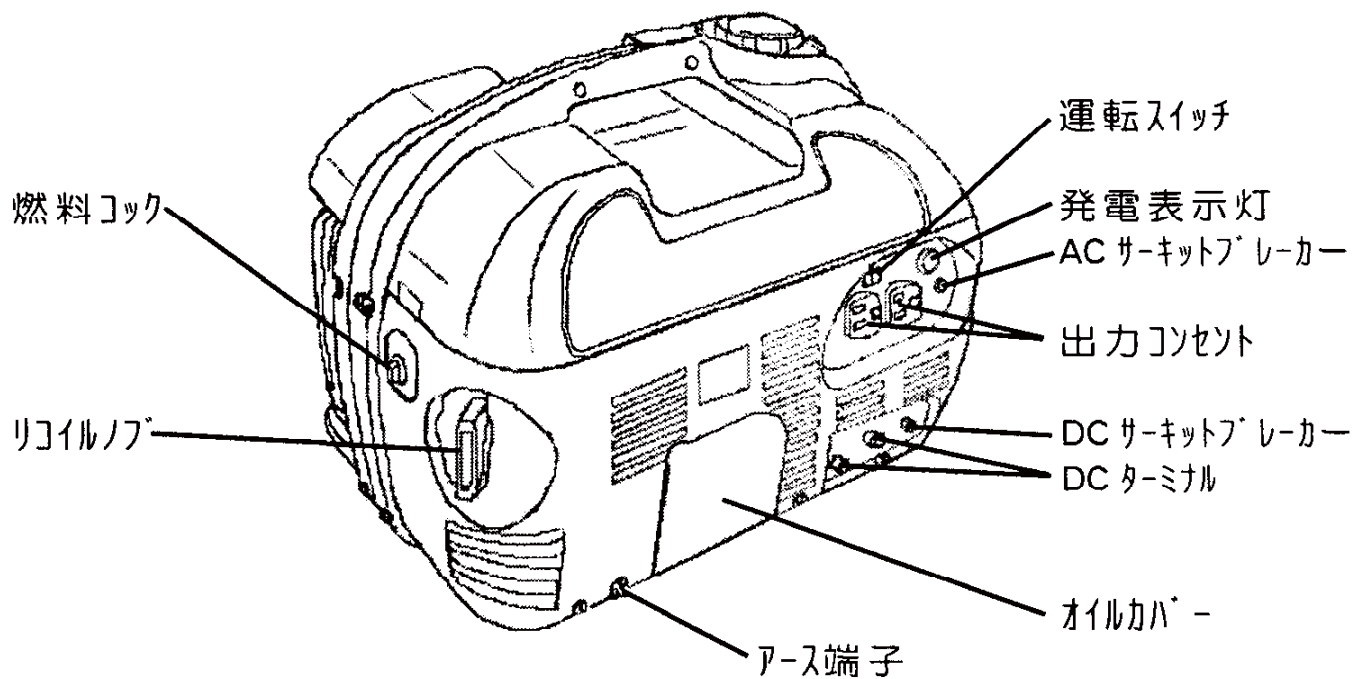
- 電動工具の電源
- 照明機器の電源
- 家電機器の電源



#### 注意：物的損害

- コンピューター・マイコン搭載機器・精密機器の電源として使用しないでください。使用機器が故障することがあります。

## 4. 各部の名称



## 5. 装備

### (1) オイルセンサー



#### 注意：やけど

- エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。

オイルセンサーは、エンジンオイルが少なくなると自動的にエンジンを停止させ、エンジンの焼き付きを防止する装置です。エンジンが自動停止したときは、『エンジンオイルの点検（P9）』の項を参照してエンジンオイルの量を点検し、エンジンオイルを上限レベルまで給油してください。

#### <注意>

- オイルセンサーは、オイルの劣化を検知することはできません。エンジンオイルは、『エンジンオイルの交換（P17）』の項を参照して定期的に交換してください。

### (2) AC（交流）・DC（直流）サーキットブレーカー



#### 注意：けが

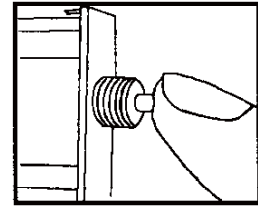
- ACサーキットブレーカー作動後、再度『ON』にするときは、必ず使用機器のスイッチを切ってください。

ACサーキットブレーカー、DCサーキットブレーカーは電流を取りすぎると、作動し『OFF』になります。使用中に電源が取り出せなくなったときは、サーキットブレーカーを点検してください。サーキットブレーカーが『OFF』になっているときは、次の操作をしてください。

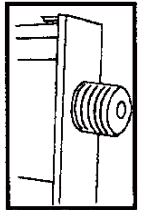
- 1 交流電源を使用している場合は、使用機器のスイッチをすべて切ります。直流電源を使用している場合は、充電コードの逆接続やショート等がないか確認します。



- 2 サーマキッブレーカーを『ON』にします。  
(サーキッブレーカーが『OFF』にな  
ってから、再度『ON』にするときは  
10秒以上時間を空けてください。)



OFF



ON

#### <注意>

- 交流電源は『使用できる機器の容量 (P15)』の項を参照し、電流を取りすぎないように注意してください。
- サーキッブレーカーは、手動で『OFF』にすることはできません。

#### (3) アース端子

本機をアース (接地) する端子です。

使用機器をアースしたときは、本機も必ずアースしてください。

## 6. 運転方法

### 6-1. 始業前点検



**注意：火災・やけど・けが**

- 点検時は必ずエンジンを停止し、絶対に火気に近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。

#### (1) エンジンオイルの点検

オイル量の点検は、本機を水平にし、オイルゲージを給油口に差し込んだ状態で（ねじ込まないで）確認してください。

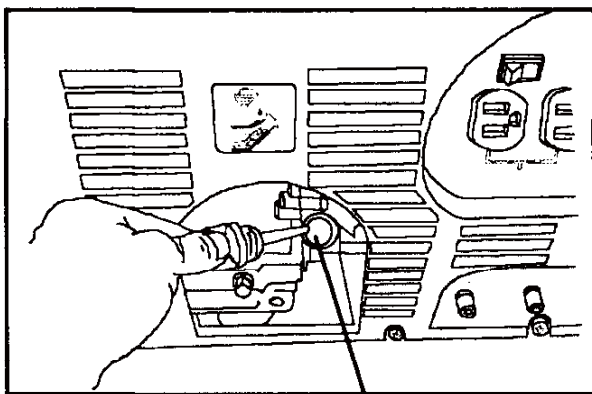
始業前には、オイルを上限レベルまで給油しておいてください。

オイル容量：約0.4L（全量）

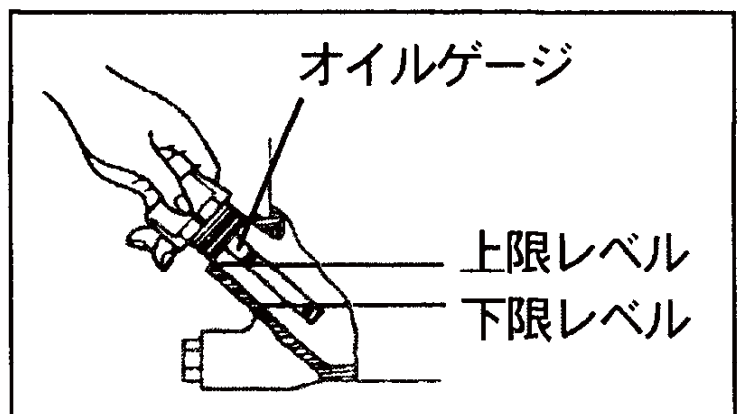
オイル有効量：約0.15L（下限レベルから上限レベルまで）

#### <注意>

- 本機が傾いた状態では、オイル量を正確に確認することはできません。
- オイル量が下限レベル付近で使用すると、本機の傾きによってはオイルセンサーが作動せず、エンジンが焼き付くことがあります。



オイル給油口



## ■ エンジンオイルの選定

オイルは外気温度に応じて適正な粘度（表を参照）のガソリンエンジン用オイルを使用してください。

オイル粘度の選定基準

	10W				
シングル グレード	20W	#20	#30	#40	
マルチ グレード	10W-30				
外気温度	10	0	10	20	30
	40℃				

### <注意>

- オイルの品質は、SD級以上のものを使用してください。
- マルチグレードを使用した場合、外気温度が高いとオイルの消費量が増えますので、オイルの残量に注意してください。

## (2) 燃料の点検



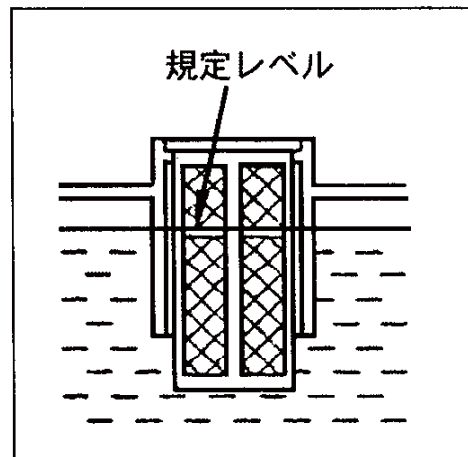
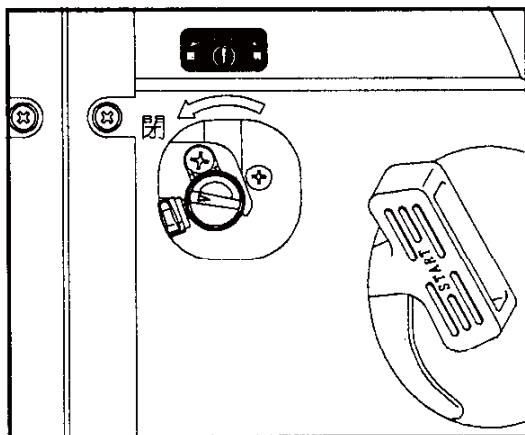
### 注意：火災

- 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。

燃料が規定レベル内に十分入っているか点検し、不足しているときは給油してください。

### <注意>

- 2ヶ月以上使用しなかった燃料は、新しい燃料に入れ換えてください。
- 燃料は無鉛ガソリンを使用してください。
- 給油時は燃料コックを閉じ、給油口に装着してある燃料コシ網を必ず使用してください。
- 燃料は規定レベル以上給油しないでください。  
(規定容量：約4.0L)



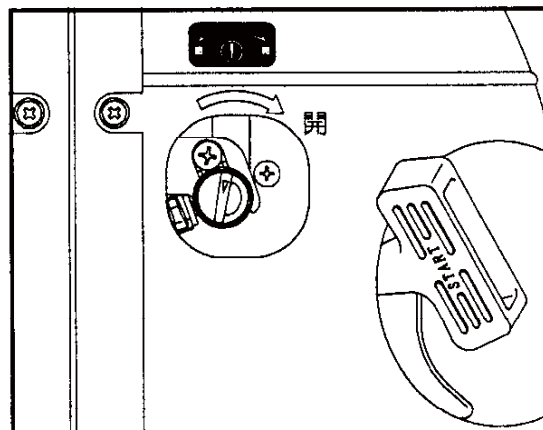
### (3) 燃料・オイルもれの点検



#### 注意：火災

- 燃料もれがある場合は、絶対に使用せず修理してください。

燃料配管接続部などからの燃料もれと、エンジンからのオイルもれがないか点検してください。  
燃料もれの点検は燃料コックを開いて行い、点検後は必ず燃料コックを閉じてください。



### 6-2. 始動



#### 危険：排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。



#### 注意：排気ガス中毒

- 排気を通行人や民家などに向けないでください。



#### 注意：火災

- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。
- 本機は壁などの障害物から1 m以上離し、水平な場所に設置してください。



#### 注意：けが

- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置してください。
- 始動前に、必ず使用機器のスイッチを切ってください。

↓1 燃料コックを『開』にします。

↓2 運転スイッチを『運転』にします。

↓3 チョークレバーを『閉』にします。

**<注意>**

- エンジンの暖機状態や外気温に合わせて、チョーク操作を加減してください。

↓4 リコイルノブを重くなるどころ（圧縮点）までゆっくりと引き、一度元に戻して一気に引きます。

**<注意>**

- リコイルノブは、いっばいに引ききらないでください。また引いた位置から手放さずに、ゆっくりと戻してください。

↓5 エンジン始動後、チョークレバーを『開』にします。

**<注意>**

- 始動後、すぐにチョークレバーを『開』にするとエンストすることがありますので、エンジンの調子にあわせて徐々に操作し、最後には必ず『開』側いっばいにしてください。

↓6 約5分間、暖機運転をします。

### 6-3. 停止

↓1 使用機器のスイッチを切ります。

↓2 約3分間冷機運転をします。

↓3 運転スイッチを『停止』にします。

↓4 エンジン停止後、燃料コックを『閉』にします。

### <注意>

- 運転スイッチを『停止』にしてもエンジンが止まらないときは、そのまま燃料コックを閉じてください。数分後に停止します。その場合は、本機をそのまま使用せずに、お求めの販売店か弊社営業所に修理を申し付けてください。

## 7. 発電機の操作



### 危険：感電

- 本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。



### 注意：けが

- 使用機器のスイッチが『OFF』になっているのを確認してから、出力コンセントに電源プラグを差し込んでください。



### 注意：物的損害

- コンピューター・マイコン搭載機器・精密機器の電源として使用しないでください。使用機器が故障することがあります。

### <注意>

- 2個のコンセント合計で定格電流以内で使用してください。
- 運転中は、サーキットブレーカーが『OFF』でも発電表示灯が点灯します。

### 7-1. 操作

#### (1) 交流電源

エンジン始動後、ACサーキットブレーカーが『ON』の状態、出力コンセントから100V交流電源が取り出せます。

#### (2) 直流電源（バッテリー充電専用）

エンジン始動後、DCサーキットブレーカーが『ON』の状態、DCターミナルからバッテリー充電専用の12V直流電源が取り出せます。最大出力は、直流12V-8.3A（100W）です。

### <注意>

- 直流電源と交流電源は同時に使用できません。

## ■ バッテリーの充電方法

### 注意：爆発

- バッテリーは引火性ガスを発生しますので、付近でスパークさせたり火気を近づけないでください。  
バッテリーの液面高さが下限レベル以下では充電をしないでください。

### 注意：目や皮膚の障害

- バッテリー液には希硫酸が含まれていますので、目・皮膚・衣服などに付着させないでください。  
付着したときはすぐに多量の水で洗い流し、特に目に入ったときは必ず医師の診断を受けてください。

### <注意>

- 充電コードの接続は、『+』『-』の極性を間違えないでください。逆接続すると、本機が破損することがあります。
- 充電コードの接続・取りはずしは、エンジンを停止して行ってください。

バッテリーの充電は次の手順で行ってください。

- 1 エンジンを停止します。
- 2 バッテリーから他の機器へ接続されているコードを、すべて取りはずします。
- 3 DCターミナル『-』とバッテリーの『-』端子を、充電コードで接続します。
- 4 DCターミナル『+』とバッテリーの『+』端子を、充電コードで接続します。
- 5 バッテリーの液口栓をすべてはずします。
- 6 バッテリーの液面高さを点検し、下限レベルに近いときは蒸留水を上限レベルまで補給します。
- 7 エンジンを始動します。

8 ↓ DCサーキットブレーカーが『ON』になっていることを確認します。

以上の操作で充電を開始します。

**<注意>**

- 充電時間はバッテリーの種類や放電状態によって異なりますので、比重計でバッテリー液の比重を1時間おきに確認しながら充電してください。  
そのときDCサーキットブレーカーが『OFF』になっていないかも確認してください。  
バッテリー液の比重が1.26～1.28になれば充電完了です。

**7-2. 使用できる機器の容量（目安）**

電動工具や家電機器は、その種類・性能によって使用できる容量が異なりますので、次の表（目安）を参照してください。

使用機器	容量の目安（W：ワット）	
	50Hz	60Hz
白熱電球、電熱器など	750	900
蛍光灯、電動工具（整流子モーター）など	400	450
水中ポンプ（W×台数）	480×1	480×1

※容量の数値は、水中ポンプが『出力』、他の機器は『消費電力』で表示しています。

※水中ポンプは『コンデンサモーター』方式の場合です。

**<注意>**

- モーターを使用した機器は、機器の定格より大きい電力を必要とすることがありますので、お求めの販売店か弊社営業所にご相談ください。



## 8. 点検・整備



### 危険：感電

- 必ずエンジンを停止してください。



### 注意：けが

- 必ずエンジンを停止してください。



### 注意：火災・やけど

- 絶対に火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから行ってください。

本機を常に良好な状態で使用できるよう、次の表にしたがって定期的に点検・整備を行ってください。

### <注意>

- 表中の●印はお求めの販売店か弊社営業所に申し付けてください。

項目	始業前点検	50時間ごと	200時間ごと	500時間ごと
1 各部の清掃・締付点検	○			
2 エンジンオイルの点検・給油	○			
3 エンジンオイルの交換	第1回目 (25時間目)	第2回以降 ○		
4 燃料・オイル漏れの点検	○			
5 エアクリナーの清掃		○		
6 スパークプラグの清掃		○		
7 スパークプラグの調整			○	
8 吸排気弁の点検・すり合わせ				●
9 燃料室内の清掃				●
10 オーバーホール				●

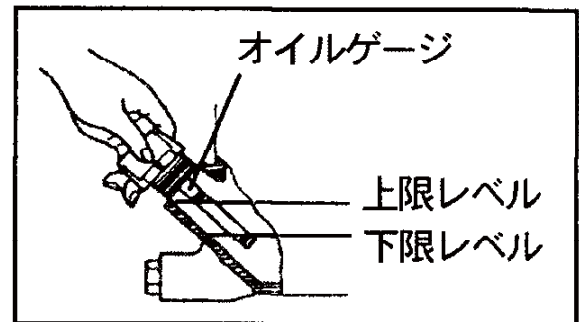
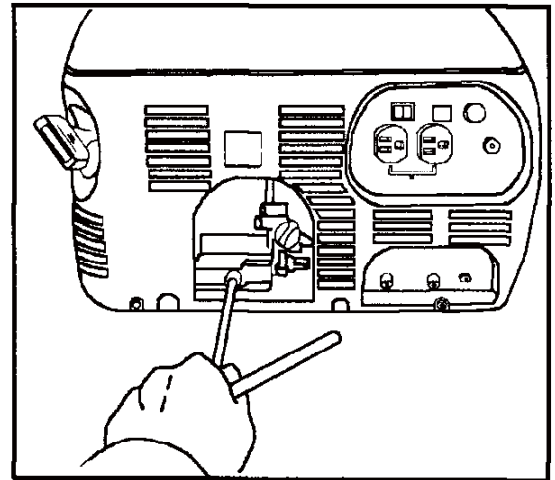
### <注意>

- 燃料パイプや防振ゴムは1年ごとに交換してください。
- 交換部品は、必ず純正品を使用してください。

## (1) エンジンオイルの交換

初 回	25時間目
2回目以降	50時間ごと

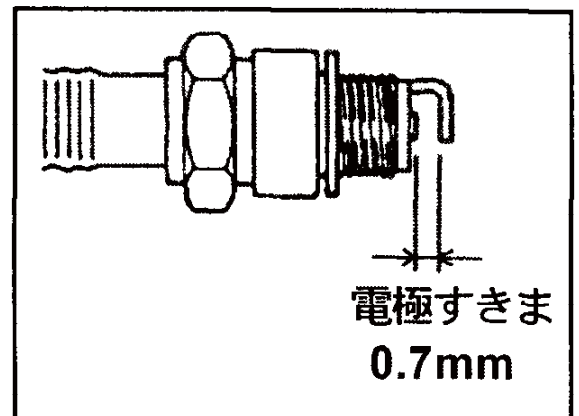
- 1 ↓ オイルゲージをはずします。
- 2 ↓ ドレンプラグをはずして、エンジンオイルを抜きます。
- 3 ↓ ドレンプラグを締め付けます。
- 4 ↓ エンジンオイルを上限レベルまで入れます。  
(約0.4L入ります)
- 5 ↓ オイルゲージを締め付けます。



## (2) スパークプラグの清掃と調整

清掃	50時間ごと
調整	200時間ごと

- 1 ↓ プラグキャップを取り、プラグレンチでスパークプラグをはずします。
- 2 ↓ スパークプラグが汚れているときは、プラグクリーナーかワイヤーブラシで汚れを落とします。
- 3 ↓ 電極すきまを0.7mmに調整します。



### <注意>

- プラグは『NGK BPR6HS』を使用してください。

### (3) エアクリーナーの清掃

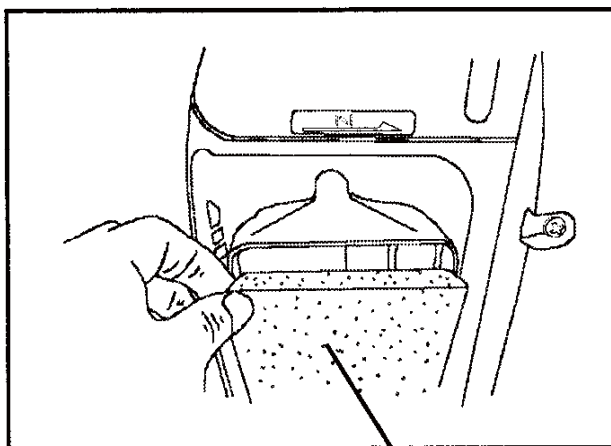
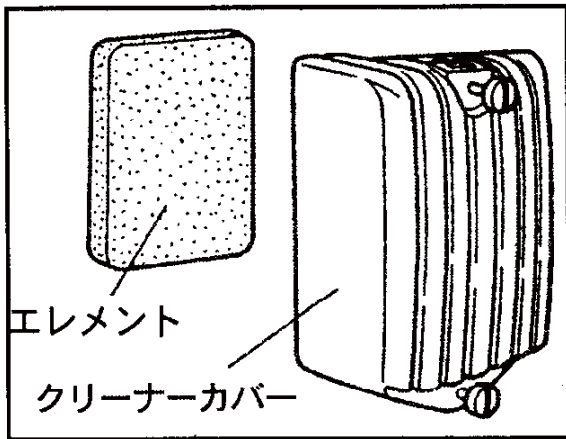
清掃 50時間ごと

#### <注意>

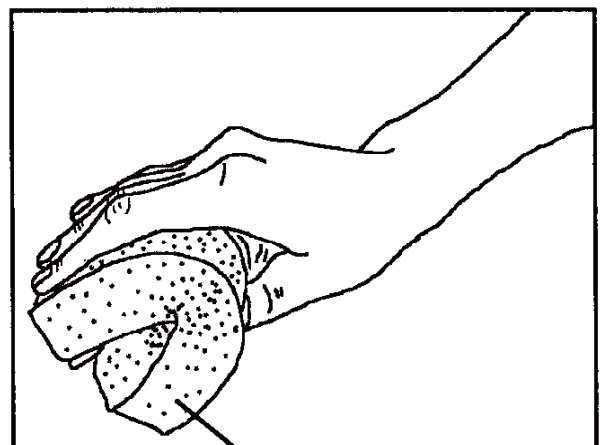
- 汚れがひどくなると、出力低下や始動不良などを起こす原因となりますので、ホコリの多い場所で使用したときは早めに清掃してください。

1 ↓ クリーナーカバーをはずします。

2 ↓ エlementを取り出し、白灯油で洗浄後、エンジンオイルに浸し、片手で固く絞って取り付けます。



エレメント



エレメント

## 9. 長期保管



### 危険：感電

- 整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。



### 注意：けが

- 整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。



### 注意：火災・やけど

- 火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから整備を行ってください。

本機を2ヶ月以上使用しないときは、次の手順に従って整備を行ってください。

- 1 燃料タンク内の燃料を、給油口より抜きます。
- 2 燃料コックを『開』にします。
- 3 キャブレター下部の燃料ドレンネジをゆるめて、キャブレター内の燃料を全部抜きます。
- 4 運転スイッチを『OFF』にします。
- 5 エンジンオイルを交換します。
- 6 スパークプラグをはずし、その穴からエンジンオイルを約2～3ml注入します。
- 7 リコイルノブをゆっくり数回引きます。
- 8 スパークプラグを取り付けます。
- 9 リコイルノブを重くなるまでゆっくり引き、元に戻します。
- 10 燃料コックを『閉』にします。

11 エアクリナーを清掃します。

12 各部を清掃し、湿気・ホコリの少ない場所にカバーなどをかけて保管します。

## 10. 故障時の対応



### 危険：感電

- 本機や体がぬれているときは、運転しないでください。
- 必ずエンジンを停止して行ってください。



### 注意：けが

- 必ずエンジンを停止してください。



### 注意：火災・やけど

- 絶対に火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから行ってください。

本機の調子が悪いときは、次の表にしたがって点検してください。点検しても正常にならないときは、お求めの販売店か弊社営業所に修理を申し付けてください。

症状	推定原因	処置
エンジンが始動しない	1.燃料コック『閉』 2.燃料の不足 3.燃料に水やゴミが混入	1.燃料コックを『開』 2.燃料を給油する 3.燃料タンクの水抜きと清掃
エンジンがすぐ停止する	1.オイルセンサー作動	1.オイルを給油する
使用機器が作動しない	1.サーキットブレーカー『OFF』 2.使用機器の電流が定格を超えている	1.サーキットブレーカーを『ON』にする 2.『使用できる機器の容量』を参考にする





# 株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2    Tel 0428-32-6181

## やまびこ産業機械株式会社

〒 731-3167 広島市安佐南区大塚西6-2-11    Tel 082-849-2005 (代)

## やまびこ北海道株式会社

〒 004-0041 北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20    Tel 011-891-2249 (代)

## やまびこ東北株式会社

〒 984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50    Tel 022-288-0511 (代)

## やまびこ東部株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2    Tel 0428-32-1091 (代)

## やまびこ中部株式会社

〒 452-0031 愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39    Tel 052-502-4111 (代)

## やまびこ西部株式会社

〒 701-0221 岡山県岡山市南区藤田566-159    Tel 086-296-5911 (代)

## やまびこ九州株式会社

〒 816-0943 福岡県大野城市白木原 5-3-7    Tel 092-573-5361 (代)

ご用命の際はご購入いただいた販売店へご連絡ください。